



平成28年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年5月16日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 丸山製作所
コード番号 6316 URL <http://www.maruyama.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾頭 正伸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 佐藤 達也

TEL 03-3252-2271

四半期報告書提出予定日 平成28年5月16日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年9月期第2四半期の連結業績(平成27年10月1日～平成28年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第2四半期	14,870	0.4	179	69.5	61	△19.1	△60	—
27年9月期第2四半期	14,817	△13.4	105	△91.6	76	△92.9	△114	—

(注) 包括利益 28年9月期第2四半期 △106百万円 (—%) 27年9月期第2四半期 144百万円 (△76.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第2四半期	△1.23	—
27年9月期第2四半期	△2.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第2四半期	34,542	—	14,080	—	—	40.8
27年9月期	34,449	—	14,383	—	—	41.8

(参考) 自己資本 28年9月期第2四半期 14,080百万円 27年9月期 14,383百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	—	—	4.00	4.00
28年9月期	—	—	—	—	—
28年9月期(予想)	—	—	—	4.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年9月期の連結業績予想(平成27年10月1日～平成28年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,000	2.3	1,300	4.0	1,200	26.7	700	8.1	14.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年9月期2Q	50,293,328 株	27年9月期	50,293,328 株
28年9月期2Q	1,203,184 株	27年9月期	1,204,611 株
28年9月期2Q	49,090,239 株	27年9月期2Q	49,085,254 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、政府や日銀の継続的な各種政策の効果などにより、設備投資の持ち直しや、雇用情勢に改善がみられ、全体として緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、海外経済におきましては、米国は回復傾向が続き、欧州も緩やかに回復しておりますが、アジアでは中国を中心に経済成長の減速が続いており、世界経済全体では、先行き不透明な状況で推移し、国内においても、円高・株安の傾向で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、国内におきましては、地域に密着した積極的な営業活動を展開することにより販売の拡大に努めてまいりました。一方、海外におきましては、現地の販売会社、駐在事務所を中心に、新たな海外販路の開拓と販売の拡大に取り組んでまいりました。

これらの結果、国内では、前連結累計期間の米価下落からの回復傾向による設備投資意欲の回復や、各種政策の効果などにより、国内売上高は11,466百万円（前年同四半期比3.9%増）となりました。一方、海外におきましては、北米向けが減少したことなどにより海外売上高は3,403百万円（前年同四半期比10.1%減）となり、当第2四半期連結累計期間の売上高合計は14,870百万円（前年同四半期比0.4%増）となりました。

利益面では、売上高の増加などにより売上総利益が増加したため、営業利益は179百万円（前年同四半期比69.5%増）となりました。経常利益は、円高に伴う為替差損の計上などにより61百万円（前年同四半期比19.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は60百万円（前年同四半期は114百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

農林業用機械は、国内におきましては、米価下落からの回復傾向による設備投資意欲の回復、各種政策の効果や、積極的な営業活動を展開したことなどにより、高性能防除機が増加いたしました。また、海外におきましても、刈払機などの林業機械が増加した結果、国内外の農林業用機械の売上高合計は11,146百万円（前年同四半期比6.2%増）、営業利益は244百万円（前年同四半期比62.3%増）となりました。

工業用機械は、国内におきましては、工業用ポンプなどが増加しましたが、海外におきましては、北米向けの工業用ポンプが減少した結果、国内外の工業用機械の売上高合計は2,349百万円（前年同四半期比12.2%減）、営業利益は496百万円（前年同四半期比13.3%減）となりました。

その他の機械は、消防機械を主なものとしており、売上高は1,269百万円（前年同四半期比17.5%減）、営業利益は71百万円（前年同四半期は22百万円の損失）となりました。

不動産賃貸他の売上高は263百万円（前年同四半期比1.1%減）、営業利益は130百万円（前年同四半期比7.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は34,542百万円となり、前連結会計年度末より92百万円増加いたしました。これは、現金及び預金の減少（655百万円）、受取手形及び売掛金の減少（1,557百万円）はありましたが、たな卸資産の増加（2,461百万円）などによるものであります。

負債総額は20,461百万円となり、前連結会計年度末より395百万円増加いたしました。これは、流動負債のその他に含まれる未払金の減少（701百万円）はありましたが、電子記録債務の増加（433百万円）、短期借入金の増加（790百万円）などによるものであります。

純資産の合計は14,080百万円となり、前連結会計年度末より302百万円減少いたしました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことなどにより利益剰余金が減少（256百万円）したことなどによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、売上債権の減少及び仕入債務の増加はありましたが、たな卸資産の増加、有形固定資産の取得による支出などにより、前連結会計年度末と比べ655百万円減少し、1,575百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果、得られた資金は107百万円(前年同四半期比513百万円増)となりました。これは、前年同四半期に比べ仕入債務の増加額の減少はありましたが、売上債権の減少などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果、使用した資金は1,022百万円(前年同四半期比503百万円増)となりました。これは、前年同四半期に比べ有形固定資産の取得による支出が増加したことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果、得られた資金は279百万円(前年同四半期比3百万円増)となりました。これは、前年同四半期に比べ長期借入れによる収入は減少しましたが、短期借入金が増加したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、今後の事業環境などを見極める必要があるため、前回予想(平成27年11月12日)を修正いたしませんが見直しが必要であると判断した時点で速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

また、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(3) 追加情報

(法人税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以降に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。

これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に利用する法定実効税率は、平成28年10月1日に開始する連結会計年度及び平成29年10月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については従来の32.26%から30.86%に、平成30年10月1日以降に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については32.26%から30.62%に変動いたします。

この法定実効税率の変動により、当第2四半期連結会計期間末の一時差異等を基礎として再計算した場合、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が、29百万円減少し、法人税等が49百万円増加しております。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1) 取引の概要

当社は当社及びグループ会社従業員のうち、一定の要件を満たす者に対する報酬の一部として当社株式を給付することにより、報酬と当社の株価や業績との連動性をより強め、従業員が株主の皆様と株価上昇による経済的な利益を共有することにより従業員の株価への意識や労働意欲を高め、ひいては中長期にみて当社グループの企業価値を高めることを目的として、「株式給付信託(J-ESOP)」(以下「本制度」という。)を導入しております。

本制度は、あらかじめ定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社及びグループ会社の従業員(管理職員)に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社及びグループ会社は、従業員に対し個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、当該従業員の退職時に累積した付与ポイントに相当する当社株式を給付します。退職者等に対し給付する当社株式については、あらかじめ信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理いたします。

本制度の導入により、従業員の勤労意欲や株価への関心が高まるほか、優秀な人材の確保にも寄与することが期待されます。

(2) 信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)第20項を適用し、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

- ①信託における帳簿価額は前連結会計年度91百万円、当第2四半期連結会計期間90百万円であります。信託が保有する自社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。
- ②期末株式数は、前連結会計年度517,000株、当第2四半期連結会計期間515,000株であり、期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間521,000株、当第2四半期連結累計期間515,286株であります。期中平均株式数は、1株当たり情報の算定上、控除する自己株式に含めております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,681	2,026
受取手形及び売掛金	11,013	9,455
商品及び製品	5,715	7,479
仕掛品	328	438
原材料及び貯蔵品	1,810	2,398
その他	843	791
貸倒引当金	△21	△42
流動資産合計	22,371	22,547
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,461	3,344
土地	2,257	2,255
その他(純額)	2,357	2,419
有形固定資産合計	8,076	8,019
無形固定資産	484	546
投資その他の資産		
投資有価証券	2,920	2,860
その他	629	610
貸倒引当金	△33	△43
投資その他の資産合計	3,517	3,427
固定資産合計	12,078	11,994
資産合計	34,449	34,542

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,748	3,131
電子記録債務	5,607	6,040
短期借入金	793	1,584
1年内償還予定の社債	102	102
未払法人税等	91	132
賞与引当金	609	581
その他	1,702	888
流動負債合計	11,655	12,461
固定負債		
社債	404	353
長期借入金	5,473	5,229
退職給付に係る負債	2,161	2,054
その他	372	362
固定負債合計	8,411	7,999
負債合計	20,066	20,461
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,651	4,651
資本剰余金	4,525	4,525
利益剰余金	4,660	4,403
自己株式	△228	△227
株主資本合計	13,609	13,352
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	885	838
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	62	34
退職給付に係る調整累計額	△174	△145
その他の包括利益累計額合計	774	727
純資産合計	14,383	14,080
負債純資産合計	34,449	34,542

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
売上高	14,817	14,870
売上原価	10,852	10,829
売上総利益	3,964	4,040
販売費及び一般管理費	3,858	3,860
営業利益	105	179
営業外収益		
受取利息	10	0
受取配当金	23	30
その他	134	16
営業外収益合計	168	47
営業外費用		
支払利息	57	58
持分法による投資損失	15	10
為替差損	—	60
退職給付費用	80	—
その他	44	36
営業外費用合計	197	165
経常利益	76	61
特別利益		
固定資産売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産処分損	14	64
投資有価証券評価損	33	—
その他	2	—
特別損失合計	50	64
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	28	△2
法人税等	143	58
四半期純損失(△)	△114	△60
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△114	△60

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日)
四半期純損失(△)	△114	△60
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	218	△46
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	36	△26
退職給付に係る調整額	0	29
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△1
その他の包括利益合計	259	△46
四半期包括利益	144	△106
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	144	△106

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	28	△2
減価償却費	371	414
貸倒引当金の増減額(△は減少)	23	31
賞与引当金の増減額(△は減少)	△24	△28
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△71	△58
受取利息及び受取配当金	△33	△31
支払利息	57	58
持分法による投資損益(△は益)	15	10
投資有価証券評価損益(△は益)	33	—
売上債権の増減額(△は増加)	305	1,478
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,211	△2,492
仕入債務の増減額(△は減少)	1,604	678
その他	△385	150
小計	△285	210
利息及び配当金の受取額	33	31
利息の支払額	△59	△57
法人税等の支払額	△94	△77
営業活動によるキャッシュ・フロー	△406	107
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△470	△830
有形固定資産の売却による収入	103	1
投資有価証券の取得による支出	△0	△50
関係会社株式の取得による支出	△3	—
貸付けによる支出	△54	—
その他	△93	△142
投資活動によるキャッシュ・フロー	△518	△1,022
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△114	517
長期借入れによる収入	1,000	400
長期借入金の返済による支出	△335	△365
社債の償還による支出	△51	△51
リース債務の返済による支出	△27	△26
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	—	0
配当金の支払額	△196	△196
財務活動によるキャッシュ・フロー	275	279
現金及び現金同等物に係る換算差額	41	△18
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△607	△655
現金及び現金同等物の期首残高	2,760	2,230
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,153	1,575

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年10月1日 至平成27年3月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	農林業用 機械	工業用 機械	その他の 機械	不動産 賃貸他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,498	2,674	1,538	105	14,817	—	14,817
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	160	160	△160	—
計	10,498	2,674	1,538	266	14,978	△160	14,817
セグメント利益又は損失(△)	150	572	△22	141	842	△736	105

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり
ます。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	農林業用 機械	工業用 機械	その他の 機械	不動産 賃貸他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,146	2,349	1,269	104	14,870	—	14,870
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	158	158	△158	—
計	11,146	2,349	1,269	263	15,028	△158	14,870
セグメント利益	244	496	71	130	943	△763	179

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり
ます。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。